

平成29年度行政事業レビューシート (厚生労働省)									
事業名	生物安全対策費			担当部局	国立感染症研究所			作成責任者	
事業開始年度	昭和56年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	総務部会計課			飯野 賢一	
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	-				
主要政策・施策	医療分野の研究開発関連、科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	病原体の中で、特に病原性の高いもの(BSL3以上)と分けられたものを取り扱い、研究者等の病原体からの保護、外部への漏出防止等のために対処した高度封じ込め実験施設の特性を持った施設の維持管理。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	高度封じ込め実験施設の維持・管理を行うことにより、研究所の適正かつ効果的な運営を確保する。								
実施方法	直接実施								
予算額・執行額 (単位:百万円)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	34	34	33	32			
		補正予算	66	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	66	-	-			
		翌年度へ繰越し	▲66	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計		34	100	33	32	0		
	執行額		34	79	33				
	執行率 (%)		100%	79%	100%				
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		34%	232%	100%					
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
	庁費	32							
	計	32	0						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度
	目標値として3.5点以上の獲得を目指す。	毎年行っている研究課題評価の総合点を間接指標として用いる。	成果実績	点	4	4.4	4.3	-	
			目標値	点	3.5	3.5	3.5	-	3.5
			達成度	%	114	126	123	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	国立感染症研究所研究開発課題評価報告書								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	高度封じ込め実験施設の定期点検	活動実績	回	1	1	1			
		当初見込み	回	1	1	1	1	1	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	X執行額/Y定期点検回数	単位当たりコスト	百万円	34	33	33	32		
		計算式	X/Y		34百万円/1回	33百万円/1回	33百万円/1回	32百万円/1回	

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	施策大目標1 国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保すること										
	施策	XII-1-1 国立感染症研究所など国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保すること										
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標		目標年度		
								29年度	30年度			
		国立感染症研究所における研究課題評価(毎年度実施)において3.5点以上の獲得を目指す	実績値	点	4	4.4	4.3					
		目標値	点	3.5	3.5	3.5	3.5		3.5			
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
	研究者等を病原体から保護し、また、病原体の外部への漏出を防ぐための高度封じ込め実験施設を維持管理することで、研究業務等の安全かつ円滑な実施に資するもの。											
	アクション・プログラムとの関係	改革項目	分野:	-	-							
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時	28年度	29年度	中間目標		目標最終年度	
					-年度			-年度	-年度			
成果実績			-	-	-	-	-	-	-	-	-	
目標値			-	-	-	-	-	-	-	-	-	
達成度	%	-	-	-	-	-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係												
-												
事業所管部局による点検・改善												
国費投入の必要性	項目			評価	評価に関する説明							
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	保健医療の向上や感染症に関する研究を行うことが国立感染症研究所の責務であり、国の感染症対策に寄与する事業であり、国費を投入する必要がある。							
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	感染症法に基づく国の責務を踏まえ実施している事業であるため。							
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	国民の健康を守るために必要な試験研究等の実施に必要な施設の維持管理であり、優先度は高い。							
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			○	一般競争入札の実施により競争性を確保している。昨年から引き続き3庁舎による公告、類似契約業者への声掛けを実施しているところであるが、村山庁舎の設備保守、点検等に係る調達については1者応札となった。引き続き、入札説明会に参加したが応札しなかった者等へのヒアリングを行う等、競争性の確保に係る取り組みを継続したい。なお、電気供給については、一般競争入札を行ったが応札者がいなかったため不調となった。見積書を複数社取得の上、一番安価な業者を選定しており、会計法に基づき適切に契約を行っている。							
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。			有								
	競争性のない随意契約となったものはないか。			有								
	受益者との負担関係は妥当であるか。			-								
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。			○	昨年度に比べ同額ではあるが、引き続きコスト削減に努める。							
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-								
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	事業の適切な遂行について、必要な経費に限定されている。							
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-								
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-									
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。			○	少額の随意契約であっても複数社から見積書を徴収し、最低価格で購入するなど、コスト削減に努めている。								
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。			○	成果実績が成果目標以上になっているので見合っている。							
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			-								
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○	事業計画時に見込んだ内容を概ね達成できている。							
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			-								
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			-								
	所管府省名	事業番号	事業名									

点検・改善結果	点検結果	高度安全実験施設の各種設備の保守点検並びに点検結果に基づく予防保全等を行っている。保守点検業務等は会計法に基づき原則一般競争入札により発注しているが、電気供給については、一般競争入札を行ったが応札者がいなかったため、不調となった。見積書を複数社取得の上、一番安価な業者を選定しており、会計法に基づき適切に契約を行っている。 28年度は昨年度に引き続き、少額の随意契約の場合でも複数社から見積書を徴収するなどコストの削減を行った。
	改善の方向性	適切に予算を執行し、事業の目標が達成できており、このまま継続して事業を実施する。また、これまでの改善策に加えて効率的な予算執行に努めたい。

外部有識者の所見

行政事業レビュー推進チームの所見

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	622	平成23年度	563	平成24年度	500	
平成25年度	882	平成26年度	882	平成27年度	892	
平成28年度	861					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



